

令和元年度 第58回岐阜県学校保健研究大会を終えて

恵那市学校保健会

1月17日、恵那文化センターにおいて、県内から約370名の学校保健関係者の方に参加いただき、第58回岐阜県学校保健研究大会を開催しました。

『新しい時代を生き抜く力を育む～子どもを取りまく大人の連携～』という大会テーマのもと、研究発表、パネル展示、アトラクション、弁当、記念講演に至るまで、一貫して”連携”を意識した大会としました。

開会式では、岐阜県学校保健会会長の河合直樹様のご挨拶や恵那市長の小坂喬峰様をはじめ、ご来賓の皆様にご祝辞をいただき、盛会に行うことができました。

岐阜県学校保健会表彰では32名の方が表彰され、学校環境衛生活動優良校表彰では36の幼稚園、小・中・高等学校が表彰されました。



次いで『進んで健康な生活を営む児童生徒の育成～学校・家庭・関係団体の連携を図りながら～』をテーマに、各分野の“連携”をキーワードに研究発表を行いました。

子どもたちを取りまく環境は急激に変化し、このような変化が子どもたちの心身の健康状態や行動に大きな影響を及ぼし、子どもたちへの関わり方も多様化・複雑化する中、子どもたちが心身ともに安全で健やかに成長できるよう、周りの大人が職種などの枠を越えた連携をすることで、個々に合ったきめ細かな対応をすることができるという視点に基づき、アレルギー対応、学校歯科保健、食育、特別支援にかかわる連携にスポットを当て、蜂谷明子医師をコーディネーターにシンポジウム形式での発表を行いました。アレルギー対応では、食物アレルギーの手引きを作成し、市で統一した対応をしていることや学校医が直接、実践研修会を学校で行っていることなど発表しました。学校歯科保健では、38年間にわたる

取組や学校・家庭と連携した取組などについて発表しました。食育では、地元生産者や高校生が積極的に関わった取組や行政とプロの料理人による料理教室の開催などについて発表しました。特別支援では、教育・発達相談センターあおばが主体となり、医療機関や学校、専門家との関わりや取組事例などを発表しました。発表後は、会場からも多くの質問や意見などがあり、参加型の充実した研究発表になりました。

また、発表した4つの分野以外にも、薬剤師会の取組、防災教育の取組事例をパネル展示形式で見させていただきました。

昼食は、地元の食材で、市民から募集した健康レシピもメニューとして盛り込んだ3種類の弁当を用意し、行政、業者、栄養教諭などが連携した食育への取り組みを実感していただきました。

昼食後のアトラクションでは、市民、子どもたちを守る消防団の「恵那トビはしご登り」を披露しました。ステージ上に高さ6mのはしごを2基立て、登り手のアクロバティックな演技に会場からも歓声と拍手がわき上がりました。

午後は『子どもの貧困・虐待・性のリアル～子どものSOSが聞こえていますか～』と題し、ジャーナリスト、九州女子短期大学特別客員教授の秋山千佳先生をお招きし、記念講演を行いました。実際に学校現場に入り、取材する中で感じたこと、見たことを元に、学校における養護教諭や保健室の役割などについてお話いただき、参加した養護教諭から、「自分たちの役割について再認識できた」などの声を多くいただきました。

このように、とても有意義で大変充実した大会となりましたのも、関係者の皆様の多大なるご協力とご支援の賜と心より感謝いたします。私たち恵那市学校保健会も、この研究大会を財産とし、児童・生徒及び教職員の健康の保持増進、保健教育の振興に努めたいと思います。

最後に、岐阜県学校保健教育のますますのご発展を祈念いたしまして、第58回岐阜県学校保健研究大会の報告といたします。